

「世界各地の人々の生活と環境」の指導展開例

東京都公立中学校教諭

はじめに

新学習指導要領が平成24（2012）年度から完全実施されるのに合わせ、平成22（2010）年4月から、各学校では新学習指導要領に沿った内容への移行が本格的に始まるものと思われる。本稿は、第1学年で扱われる「世界各地の人々の生活と環境」の指導展開例である。

この単元を計画するにあたっては、以下の3点を留意したいこととして考えた。

第一に、中学校1年生の1学期という学習時期と小学校との接続を意識し、なるべく具体的な（衣食住などの生活の様子が見える）写真や映像などの資料を活用することである。これらを活用することで、生徒に多様な生活の様子を想像させ、その位置を含め「世界のどこに何がどのように広がっているのか」といった地理的感覚を拓けていくことが大切だと考える。その際、地球儀や地図帳を使い、実際にその国や地域に行くというイメージを持たせる活動が考えられよう。

第二に、単に事象の分布の様子や特色などを知識として教えるだけではなく、その要因を自然条件や社会的条件（宗教を含む）と関連させて考察させていくことである。たとえば、「同じ気候帯に位置する国なのに、服装に違いが見られるのはどうしてか」、「主食が小麦の地域には、どんな共通点があるのだら

うか」、「暑い地域と寒い地域両方で、高床の家が見られるのはなぜか」、など、地理的事象を分析する視点となる問いを教師が準備し、意図的に授業を展開することが大切であろう。

最後に、事例として取り上げる生活の様子はあくまでその国の一面にすぎなかったり、今後変容する可能性があるため、過度な一般化をしないように配慮すること、日本の生活を絶対視し、他が異質であるという見方をしてはいけないことに配慮することである。多様な文化を尊重する態度を養うことも今回の学習指導要領では求められている。日本との違いを強調するだけでなく、日本との共通性を見出す活動や、日本の生活は世界の中のどのような特色を持つグループに分類されるのかといった相対的な視点も忘れないようにしたい。

2 指導の展開

以上の点を意識し、指導計画を以下のようにたてた。配当時間は、社会科学習会編集の『中学校社会科「地理的分野」指導実践例』（帝国書院印刷）等を参考に、8時間を配当した。

時間	おもな学習活動
	テーマ「もし海外転勤になったら？」
1	・乾燥地域（乾燥帯）の人々の生活 <エジプトを例に>

	・宗教と生活のかかわり
2	・熱帯地域の人々の生活 ＜東南アジア諸地域を例に＞
3	・日本と似通った気候(温帯)の生活 ＜ニュージーランドを例に＞
4	・とても寒い地域(寒帯・亜寒帯)の人々の生活 ＜ロシア(シベリア)とカナダ北部を例に＞
5	・高地に暮らす人々の生活 ＜アンデス地方を例に＞
テーマ「人々の生活を地図上にまとめよう」	
6	・世界の大まかな気候分布・多様な住居と自然環境の関係を探ろう
7	・多様な衣服と自然環境や宗教との関係を探ろう
8	・多様な食文化が生まれた理由について考えよう

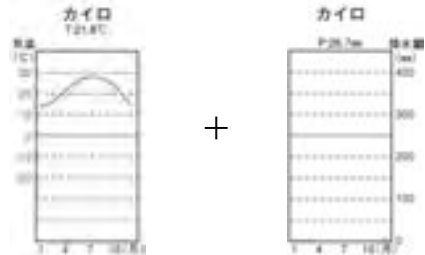


次に、「エジプトはどんな気候か」「エジプトで生活するときに必要なものは何か」について、写真から読み取ったイメージや生徒が知っていることをもとに予想させる。また、なぜそう考えたのか、根拠も示させる。

こうして、エジプトの生活のイメージを膨らませた後、雨温図を紹介する。雨温図の読み方は、中学1年生の生徒にとってはやや難しいと考えられるため、月平均気温と降水量のグラフを分割して説明するなど、読み方を丁寧に指導する必要があると思われる（私は、気温0度のところに赤線、降水量0mmに青線を引かせ、基準の違いを意識させている）。

新学習指導要領で示された「習得－活用－探究」の流れを意識し、初めの5時間では世界のおもな気候帯別に、特色ある暮らしぶりを生徒に海外転勤させるつもりで学ばせ、気候帯の違いごとの生活の様子の違いをつかませる。その際、社会的条件として、宗教・歴史・民族の違いによる生活の違いを取り上げ、自然環境決定論に陥らないよう配慮するとともに、一つの地域を多様な視点で見ていくという姿勢を身につけさせたい。

第1時では、エジプト（歴史的分野との関連も意識して設定した）を事例に取り扱う。



「中学校スタンダード地理資料・ワーク」p.84

雨温図から、気温と降水量の特色を読み取らせ、雨が降らないため、砂漠が広がっていることを示す。

このような気候を「乾燥帯」といい、乾燥帯は北アフリカを中心に西アジア、オーストラリア、モンゴルに分布していることを、地



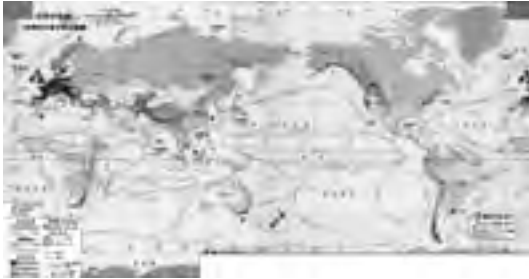
＜ギザのピラミッド＞

ピラミッドなどの数枚の写真から国名を挙げさせ、位置を地球儀（グループ＜班＞に一つ用意）で確認させる（第1～5時まで継続して行う）。



＜岩石砂漠 スエズ付近＞

図帳11～12ページを使い読み取らせる。



「中学校社会科地図 初訂版」p.11～12

ところで、雨温図からは気温の日較差は読み取れないため、エジプトの気温は日本とそれほど変わらないように思える。そこで、補足資料として、月別の平均最高気温と平均最低気温を示し、昼の暑さと夜の涼しさ（湿度の低さもあわせて）を考えさせたい。

これらの乾燥帯の特色をふまえ、以下、エジプトに見られる住居、食事、衣服等の写真から、それらが自然環境とどういった関係があるか話し合う。また、乾燥地域に特徴的に見られるオアシスや、オアシスを使った農業についてもふれ、水の少ない地域での生活の工夫について考えさせる。



<日干しれんがの家>

最後に、本時では衣服と宗教の関係について考えさせたい。なぜ夏に40度を超える地域なのに、長袖を着たり女性が顔を覆っているのか。気候条件だけから考えれば、砂ぼこりを防ぐことや紫外線から肌を守ることが出てくるだろう。また、社会的条件として、イスラム教の宗教的な教えで、女性は外で肌を隠



<オアシスのベドウィン>

す習慣があることをつかませたい。そして、西アジアを中心にイスラム教が分布していることを、地図から理解させたい。



「中学校社会科地図 初訂版」p.125

余談であるが、エジプトの女子バレーボールチームには、スカーフで頭部を覆い、膝まで隠れるような長いパンツをはいている選手もいれば、顔を出しハーフパンツで出場している選手もいて、興味深い。

第2時では、同じように熱帯地域の生活について、シンガポール・マレーシア・インドネシア周辺を事例に学習する。この時間では、蒸し暑さに対応した生活の工夫について学ぶことが中心となる。



<マレーシアの高床住宅>

また、熱帯の中にも米食地域と芋食地域があることから、気候や土壌と農業のかかわりについてふれたい。また、民族の違いにより服装が違っていることを例に、民族という視点を授業に取り入れたい。これは、以後のアジア州の学習につなげる意図もある。



「中学校社会科地図 初訂版」p.29

第3時では、日本と同じ温帯の暮らしについて、ニュージーランドを例に学習する。

日本と同じ四季がある気候であるが、牧羊や畜産が盛んなのはなぜか、ということ、ニュージーランド国旗からヨーロッパとの歴史的背景や結びつきを踏まえて考えさせたい。また、先住民マオリの文化との共存についてもふれたい。

第4時では亜寒帯の暮らしについて、まずシベリアを例に取り上げる。ここでは、熱帯地方と同じような高床のアパートが見られる。

一見正反対の熱帯と亜寒帯で、同じような建築が見られるのはなぜか考えさせ、違う理由で同じようなものが生まれるという面白さについて考えさせたい。同様に、農業ができない地域での遊牧（乾燥帯と同じ理由）につ



<ヤクーツク市のアパート>

いても、考えさせたい。

ここでは関連させて、寒帯のカナダのイヌイットの生活を紹介し、とくにイヌイット社会の変容について扱う。伝統的な生活が他地域との交流により変容することで生まれたよい面や問題点を考えさせたい。

第5時では、アンデス山脈の高地を事例に高地の生活について考えさせる。ここでは、位置や緯度から気候を予想させた後、雨温図を提示したい。

そして、6～8時間目では、前5時間で習得した内容を活かし、世界旅行のレポートとして、世界の多様な衣食住の様子を、自然条件や社会的条件と結びつけ、白地図を利用してまとめさせる。地域ごとにこれまで見てきたことを横の軸とするならば、衣食住という縦の軸でまとめ直すことになる。これまで学習した多様な環境での生活について、1時間ごとに衣食住のいずれかにテーマをしぼり、その違いが生まれた理由について、地図帳などの資料から改めてその違いについて読み取ったり、まとめたりする活動を通して、生活と環境の多様性について理解を深めることができると思う。

3 おわりに

本單元では、どのような写真資料を提示するか、どのように資料を見せていくか、ということが一つのポイントになってくるだろう。前者は、帝国書院ホームページにも多数の写真があり、利用できる（掲載写真）。後者は、電子黒板などを利用すると提示が容易である。また、世界地図を常に教室に掲示し、地球上での位置感覚を高めるという意識をもっておきたい。